

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
発達と学習 Development and Learning Psychology		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(英語教諭、栄養教諭の教職課程科目)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教職関連科目 心理学				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職関連科目 心理学				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
小竹仁美	講義棟3階	水・木・金（授業時間と学生相談時間を除く）		授業中に指示します
授業の概要				
人がどのように発達し学習していくのかについての諸理論を、特に乳幼児期から青年期にかけてワーク等を活用して体験的に学び、それをもとに学校現場で生じる諸事例について考察を行う。				
授業の目標				
①児童や生徒の発達とそれに伴う心理的課題について理解し、適切な対応をとることができるようにする。 ②発達段階に適した学習指導法を理解し、実際の現場で応用できるようにする。				
授業の方法				
講義形式と、グループワークなどの参加型形式。				
学習の成果（学習成果）				
①乳幼児から中学生までの発達の過程と特徴を学び、この時期に起こりやすい心理的課題に対して予備的な知識を得て、適切な対応をとることができる。 ②発達段階を想定し、授業方法を工夫して授業計画を作成することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業概要や目標の説明、成績評価と受講上のルールの説明） 発達と学習の心理学とは			
第2回目	発達とは（発達の理解、発達の影響を及ぼす要因、発達段階と発達課題）			
第3回目	乳幼児期の発達			
第4回目	児童期の発達			
第5回目	青年期の発達			
第6回目	学習の理論（学習とは、条件づけ）			

第7回目	認知と学習（記憶、メタ認知と記憶方略）	*授業計画についての説明
第8回目	学習理論の教育への応用（学習形態と指導方法、個別性に応じた学習と教育）	*模擬授業のテーマ提出
第9回目	動機付け	*模擬授業計画提出（1回目）
第10回目	知能の理論 知能の測定と評価	*模擬授業計画提出（2回目）
第11回目	教育評価	*模擬授業計画提出（3回目）
第12回目	発達障害の理解	*模擬授業計画提出（4回目）
第13回目	発達障害への教育支援	*模擬授業計画（最終）
第14回目	模擬授業実施	
第15回目	模擬授業実施	
事前・事後学習	授業範囲の教科書を読み直しておくこと。模擬授業のテーマについて調べを進めること。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	40%	目的意識を明確に持ち、積極的に参加し、ノートテイクと教科書の読み込みを行っている。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	50%	模擬授業において、授業対象者の年齢を設定し、その発達段階にふさわしいテーマを選択し、説明用の教材とことばを工夫し、落ち着いた態度で発表している。
その他	10%	模擬授業計画の作成を計画的に進め、提出している。
教科書と参考図書		
内藤佳津雄・北村世都・市川優一郎 『発達と学習』 弘文堂		
履修上の留意点・ルール		
積極的な参加および教職を志す者としてふさわしい態度と行動を期待する。		